

ふれあい記録

実施日：平成 30 年 1 月 18 日

当番者名：柴崎幸治、根本邦子

コース名：独自コース 55 番 「矢筈山(816m)」

(通算回数 第 137 回)

天 候：曇り(霧)

参加者名：相川 勲、岩崎宗郷、江口正彦、小俣悦男、神谷順子、功力満紀子、熊谷信雄、柴崎幸治、新海 昭、西村寿文、根本邦子、船橋エイ子、細矢清志、堀井克子、山腰策次郎、吉田千代

<ビジター>市瀬英雄、鶴岡重典、野口和夫

計 19 名 (内、男性 13 名 女性 6 名) (五十音順)

交通(時刻)：〈往路〉(JR 東海道本線)横浜 7:00 発→(戸塚 7:10→大船 7:15→) 8:20 着 熱海
(JR 伊東線) 8:24 発→ 8:47 着 伊東

タクシー：伊東駅前 8:55 発→9:20 着 鹿路庭峠(矢筈山登山口)

〈復路〉(バス:伊豆東海バス) シャボテン公園 15:11 発→15:55 着 伊東駅

(JR 伊東線・東海道本線) 伊東 16:10 発→(熱海乗換)→18:03 着 横浜

コースタイム(時刻)：

鹿路庭峠(登山口) 9:20 着 [準備体操 後] 9:35 発→一つ目の窪地→孔の山山腹→11:28 着 矢筈山山頂 [昼食 11:30~12:00] 矢筈山山頂 12:00 発→(登りコースと同じコースを下る)→一つ目の窪地 [オレンジタイム 13:22~13:40]→14:00 着 鹿路庭峠
14:05 発→(遠笠山道路・さくらの里公園)→15:10 着 伊豆シャボテン公園(バス停)

みどころ：伊豆東部火山群の矢筈山と孔の山は粘り気の強い流れにくい溶岩が火口の周りに盛り上がって出来た溶岩ドームの山で 2700 万年前の割れ目噴火で作られた。このドームは富士箱根伊豆国立公園の特別保護区に含まれており、矢筈山はこの形からげんこつ山と呼ばれている。また、眼下に見える池集落は大室山の噴火で流れ出した溶岩により堰き止められた湖の名残で明治初年まで湖が残っていたため、池と呼ばれている。排水整備により生まれた水田は四季を通して美しい里山になっている。

自然観察：鹿路庭峠から 20 分も歩くと、多数の倒木が見られ、一部は登山路を塞いでいた。それを過ぎると苔が石(岩)や倒木、立木に生え、一面苔の山となる。途中、水が流れているのか、溜まっているのかわからない窪地、山に囲まれた平地の杉林と進むと石の多い登山路となる。そこからは矢筈山への登りとなり、苔生した石、倒木を見ながら、崩れやすいかなりの急斜面を登る。そして頂上近くは苔の生えた石の上を、標識を確認しながら登る。頂上は馬酔木等の樹木に覆われている。

何といっても矢筈山は苔の山であり、霧の中の登はんだだったので特に綺麗だった。

特記事項：矢筈山の登はん路は迷いやすく、倒木も多く、赤リボン等の標識を確認しながらの登り、下りだった。特に頂上付近は苔の生えた石の上を赤リボンのマーク、「山頂」という標識を確認しながら、かつ足元を正確に確保しながらであり、慎重な行動となった。そんなことで地図のコースタイムをかなりオーバーしたが、仕方ないことであつたと考えている。また、唯一眺望ができる大室山方面は霧で眺められなかった。

鹿路庭峠からの帰りは交通手段が乏しく、舗装道路の歩行となり、また時間も押していたのでかなりきつい歩行となった(ごめんなさい)。